

日本近代史講座…戦争と平和と歴史に学ぶ未来へのメッセージ

畑佐桂輔

開講のご挨拶

私の生家は東京・台東区入谷で和服小物を扱う商家でした。私が七歳の時、昭和二〇年三月一〇日の東京大空襲で焼け出され、四年後には両親が死亡して残された姉妹と私は一家離散となりました。あの急激な生活の変化は一体何であつたかと思うにつけ、あの戦争はどうして起きたのかと長い間疑問を持ち続けて、自分なりに日本の近代史を読み続けていました。当時は戦前に関する書物は戦争体験記物が殆どで、先の大戦の原因を体系的に究明した本は見当たりませんでした。そこで私は明治維新から先の大戦に至る歴史の転換点を拾って行けば、その実相が掴めるのではないかと思い、七〇歳からボツボツと書き始め既に一〇年余り過ぎて、これで先の大戦の原因究明が出来たかどうか自信をもつて断言できませんが、私の寿命との競争もありますので、この辺で取敢えず発表に踏み切りました。歴史は繰り返すとよく言われますが、司馬遼太郎はその著書「昭和という国家一三六頁」で、次のように述べています。「この道はいつか来た道といったような、もう一度太平洋戦争や満州事変の前夜のような時代に戻るのではないかと心配される方もありますが、我々は一度自由というものを知ったので、そういう事は起こらないと思います。歴史は単に繰り返す事は無く、常にある条件があつて繰り返しが成立します。従つてあの悪夢のような昭和の歴史を忘れてはいけないし、あの過去の歴史の事象がいかなる条件になれば繰り返すかという事は、もつと研究しなければならぬ。」という主旨の下に、私なりにこれこそ先の大戦に至つた歴史上の転換点と判断したテーマを選び、「戦争と平和と歴史に学ぶ未来へのメッセージ」として戦争を起こさない平和な社会を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

講座予定表

- 第1回 アジア最初の国民国家誕生…徳川慶喜の不戦の背景
- 第2回 明治憲法下の法体制にまつわる諸問題
- 第3回 日清・日露戦争の影響
- 第4回 第一次世界大戦の影響
- 第5回 米国の日本移民排斥運動
- 第6回 陸海軍の教育制度・陸軍幕僚派閥の台頭
- 第7回 大正・昭和時代の経済恐慌
- 第8回 満州事変
- 第9回 軍部によるクーデター
- 第10回 日中平和工作の挫折
- 第11回 近衛首相と松岡外相の外交戦略
- 第12回 第三次近衛内閣の日米交渉

講師略歴

昭和一二年東京都台東区入谷にて出生。早稲田大学理工学部卒業、旭化成工業(株)に入社し、主として海外繊維工場の設計建設工事担当。五五歳で(株)バルビゾン・フジを設立し欧州の鏡・額縁輸入卸販売。平成一四年より(静岡市)(株)塩川光明堂に勤務し輸入業務担当。その間七〇歳から私家本・日本近代史を編纂

開講のご挨拶

私の生家は東京・台東区入谷で和服小物を扱う商家でした。私が七歳の時、昭和二〇年三月一〇日の東京大空襲で焼け出され、四年後には両親が死亡して残された姉妹と私は一家離散となりました。あの急激な生活の変化は一体何であつたかと思うにつけ、あの戦争はどうして起きたのかと長い間疑問を持ち続けて、自分なりに日本の近代史を読み続けていました。当時は戦前に関する書物は戦争体験記物が殆どで、先の大戦の原因を体系的に究明した本は見当たりませんでした。そこで私は明治維新から先の大戦に至る歴史の転換点を拾って行けば、その実相が掴めるのではないかと思い、七〇歳からボツボツと書き始め既に一〇年余り過ぎて、これで先の大戦の原因究明が出来たかどうか自信をもつて断言できませんが、私の寿命との競争もありますので、この辺で取敢えず発表に踏み切りました。歴史は繰り返すとよく言われますが、司馬遼太郎はその著書「昭和という国家一三六頁」で、次のように述べています。「この道はいつか来た道といったような、もう一度太平洋戦争や満州事変の前夜のような時代に戻るのではないかと心配される方もありますが、我々は一度自由というものを知ったので、そういう事は起こらないと思います。歴史は単に繰り返す事は無く、常にある条件があつて繰り返しが成立します。従つてあの悪夢のような昭和の歴史を忘れてはいけないし、あの過去の歴史の事象がいかなる条件になれば繰り返すかという事は、もつと研究しなければならぬ。」という主旨の下に、私なりにこれこそ先の大戦に至った歴史上の転換点と判断したテーマを選び、「戦争と平和と歴史に学ぶ未来へのメッセージ」として戦争を起ささない平和な社会を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

講座予定表

- | | | |
|------|----------|-------------------------|
| 第1回 | 四月一日(日) | アジア最初の国民国家誕生…徳川慶喜の不戦の背景 |
| 第2回 | 四月二五日(日) | 明治憲法下の法体制にまつわる諸問題 |
| 第3回 | 五月九日(日) | 日清・日露戦争の影響 |
| 第4回 | 五月二三日(日) | 第一次世界大戦の影響 |
| 第5回 | 六月一三日(日) | 米国の日本移民排斥運動 |
| 第6回 | 六月二〇日(日) | 陸海軍の教育制度・陸軍幕僚派閥の台頭 |
| 第7回 | 七月一日(日) | 大正・昭和時代の経済恐慌 |
| 第8回 | 七月二五日(日) | 満州事変 |
| 第9回 | 八月八日(日) | 軍部によるクーデター |
| 第10回 | 八月二二日(日) | 日中和平工作の挫折 |
| 第11回 | 九月一二日(日) | 近衛首相と松岡外相の外交戦略 |
| 第12回 | 九月二六(日) | 第三次近衛内閣の日米交渉 |

講師略歴

昭和一二年東京都台東区入谷にて出生。早稲田大学理工学部卒業、旭化成工業(株)に入社し、主として海外繊維工場の設計建設工事担当。五五歳で(株)バルビゾン・フジを設立し欧州の鏡・額縁輸入卸販売。平成一四年より(静岡市)(株)塩川光明堂に勤務し輸入業務担当。その間七〇歳から私家本・日本近代史を編纂